

宿泊付きデイサービス「茶話本舗」を全国で420カ所展開する日本介護福祉グループ（東京都墨田区）は7月22日、サービス付き事業への新規参入を発表した。ブランド名は「結笑（ゆえ）」。来春に第1号を開設し、年内5棟の開設を目指すという。



日本介護福祉グループ  
齊藤正行副社長

「結笑」は、住宅十層宅介護士訪問介護の「結笑の葉」。それにデイサービスを加えた「結笑の実」。さらに

訪問看護とクリニックを加えた「結笑の樹」の3タイプを計画。住宅部分では24時間見守り、管理人常駐あるいはオンコール、生活相談のサービスを提供する。住宅の規模は20〜30戸程度を予定している。

「当社が展開しているデイサービス『茶話本舗』の『小規模、低価格』のコンセプトはそのまま住宅に用いていきます。入居者については、現在デイサービス利用者で、長期宿泊をしている人も対象にしていきます。利用者の中には所得が低い人も多いので、彼らが無理なく利用出来る価格水準としていきます。具体的には家賃・食費・管理費合計で月に10万円以内、介護保険自己負担を含めても15万円程度で生活出来る水準を目指します。この価格帯を実現するために、木造建築の採用による建築コストの軽減に加え、国による整備費の補助を積極的に活用していきま

す（齊藤正行副社長）

東京都が今年の3月に打ち出した、宿泊付きデイサービスの運営に関する独自基準では、宿泊サービスの連続利用は原則30日までとされた。これを受けて、長期利用者で自宅に戻れない事情がある人たちの受け入れ先確保が同社をはじめとする宿泊付きデイサービス事業者の課題となっていた。

## 来年度中に5棟の開設を目指す

齊藤副社長によると「正確な統計を取ったわけではないが、当社の場合には、1事業所に1人ぐらいの感覚で長期利用者がいる」という。